

緑のセンターだより

公益財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑のセンター(相談所)

〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 Tel 0166-65-5553 Fax 0166-65-5626

旭川市公園緑地協会ホームページ <http://www.asahikawa-park.or.jp>



No.191

発行:令和3年8月1日

新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況などによって中止、または、内容を変更させていただくことがあります。あらかじめ、ご了承くださいませよう、お願いいたします。

講習会のご案内

(お申込み・受付は前月の20日から)

「神楽岡公園 夏の自然観察会」

とき 令和3年8月14日(土)

午前9:30~11:30 定員15名

講師 森の写真家 阿久津 弘明さん

森林インストラクター 佐藤 まゆみさん



「おいしい野菜を作るための土づくり講座」

とき 令和3年9月25日(土) **500円**

午後1:30~3:30 定員10名

講師 緑のセンター相談員



「旭川でハマボウフウを育てよう」

とき 令和3年9月26日(日) **500円**

午後1:30~3:30 定員10名

講師 緑のセンター相談員

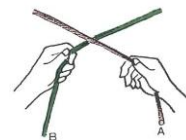


「庭木の冬囲いを覚えよう」

とき 令和3年10月2日(土)

午後1:30~3:30 定員10名

講師 公園緑地協会職員(緑のセンター)



「ビオラと秋植え球根の寄せ植え」

とき 令和3年10月3日(日) **1,000円**

午後1:30~3:30 定員10名

講師 緑のセンター相談員



「立派なコショウランをもらった時の講習会 III」

とき 令和3年10月24日(日)

午後1:30~3:30 定員5名

講師 緑のセンター相談員



お知らせ

コロナウイルス感染拡大防止のため、

令和3年 神楽岡公園 「緑のセンターまつり」開催を中止させていただきます。

展示会のご案内

「押し花展」* 8月1日(日)~ 9月26日(日) * 作品提供:押し花サークル つくしんぼ

「木の実・草の実写真展」* 10月1日(金)~11月30日(火) * 作品提供:神田 亘雄さん

【休館日のお知らせ】

4月~10月は第2・4月曜日が休館日です。(祝日の場合は翌日)

11月~ 3月は毎週月曜日が休館日です。(")



〈園芸の基礎知識〉 植物の生き残るための争い

～ 厳しい気候からからだを守る ～

■ 紫外線からからだを守る

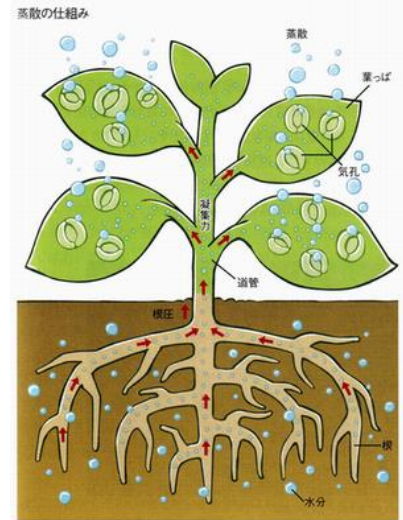
植物たちは、太陽の紫外線がガンガンと降りそそぐ中で暮らしています。特に夏は、灼熱の炎天のもとで、植物たちは強い紫外線に当たっています。植物たちが紫外線に当たりながら生きていくためには、からだの中で発生する「活性酸素」を消去しなければなりません。そのためには、活性酸素の害を消すものがが必要です。それが、「抗酸化物質」とよばれる、ビタミンCとビタミンEです。植物たちには、活性酸素の害を防ぐために必要なものです。植物たちは、自分のからだに当たる紫外線の害を消すために、これらのビタミンをつくるのです。

■ 「暑さ」「寒さ」からからだを守る

夏に繁茂するためには、暑さに耐える仕組みが必要です。葉っぱの温度が異常に高くなりそうな場合、葉っぱの表面にある小さな気孔とよばれる穴から、水を盛んに蒸発させて蒸散という作用で、からだの温度を冷やすのです。

夏の暑さに弱い植物は、夏の暑い期間をタネで過ごします。春に花を咲かせ、タネをつくりまします。暑さに弱い植物が多くいますから、春に花咲く植物が多いのです。冬の寒さに弱い植物は秋に花を咲かせて、冬の寒さがくるまでにタネをつくり子孫を残します。しかし、春に花を咲かせる樹木は、秋に花を咲かせても、冬の寒さのためにタネはできず、子孫を残せません。そうならないために、タネにならずに、冬の寒さを過ごす植物たちがいます。ウメやサクラ、モクレンやハナミズキなどは、秋の間に夏にできたツボミを冬の寒さをしのぐため「越冬芽」に包み込むのです。

(参考資料:SBビジュアル新書「植物のすさまじい生存競争」ほか)



ちょっと楽しい講座のご紹介

緑の講習会「おいしい野菜をつくるための土づくり講座」から

黒っぽく、ふかふかして、やわらかい土でおいしい野菜をつくりたい！表記の講座が昨年9月に開催されました。空気をよく含んだふかふかの土をつくるために欠かせないのが「有機物」です。畑では収穫が終わった秋のうちに堆肥や腐葉土などの「有機物質材」を土に施し、よく耕しておきます。

土壌中の有機物は「腐植」と呼ばれ、腐植は土の粒とくっついて「団粒」と呼ばれる構造を作ります。有機物が豊富な土は、それを植物が利用できる形に分解する小動物や微生物の住処となります。また、団粒構造は植物の生育に必要なミネラルを保持する能力に優れています。そして、ゆっくりと長く植物に養分を供給してくれる土になります。講座では、有機物を補給する「完熟堆肥」を圃場に施してはいけなことを、1回に施す量は決まっていますので、何年もかけて土づくりをすることを理解していただきました。



持参していただいた各家庭菜園の土のpH(酸度)を配布した「酸度検定器(比色による検査)」で検査しました。多くの皆さんがほぼ適正pHでしたが、深さ20～30cmの土がこのようにふかふかの土にして、おいしいトマトやきゅうり、なすなどの野菜を収穫しようを合い言葉に講座を終了しました。

植物の病害虫

その62 「トウモロコシの黒穂病」



トウモロコシの症状



メキシコではパック詰めで販売



バラバラにした状態

1 寄生しやすい植物

トウモロコシにのみ寄生します。

2 被害

罹病部位が異常肥大してこぶ状になり、この特徴ある形状から一般に「お化け」と呼ばれています。このこぶが形成されるのは雌穂や雄穂に多く発生しますが、葉、茎などのあらゆる部位にも形成されます。こぶは草丈が約1mに伸長したところから発病が始まり、熟期が進むにつれて目立つようになります。こぶは、はじめ白く軟らかい膜で包まれているが、のちに破れて内部より黒色粉状物(病原菌の厚膜胞子)を飛散します。

3 生態

病原糸状菌ウスティラゴ・メイディスにより引き起こされる土壌伝染性の病害で、梅雨明け頃から夏にかけて発生します。

病患部に生じた厚膜胞子(黒色粉状物)が落下して土壌中で越冬します。この厚膜胞子は生存期間が非常に長く、土壌中で7年以上も生存するといわれています。越冬した厚膜胞子は翌年発芽して小生子を生じ、この小生子が飛散してトウモロコシに達し、主に雌穂、雄穂など生育中の軟らかい組織から侵入して発病します。

4 防除法

- ① 胞子の土中での生存期間が長いために、3年以上の間隔を空けた輪作をします。
- ② 発病したトウモロコシはコブが破れて黒色粉状物が飛散しないうちに取り除いて焼却します。
- ③ 窒素肥料の多肥を避けて、植物体を健全に育てるようにします。
- ④ 病原菌の胞子は堆肥として死滅することはありませんので、被害植物を堆肥にした場合はトウモロコシ圃場に施用出来ません。
- ⑤ 登録農薬はありません。市販の種子は薬剤が紛衣されていますので伝染源とはなりません。

コラム:メキシコでは黒穂病菌に感染した穂をウイトラコチェと呼んで若いこぶを食用としています。



切り花を楽しむ・・・長持ちさせるコツは

①買って来たなら水切りをする。②水をコマメに変える。③なるべく温度が低い所に置く。④花瓶の水は多めにする。⑤延命剤を利用する。ことが切り花を飾る時に長持ちさせるコツです。

それに加え、水揚げをすることで更に花もちが良くなるのが期待できるので、水揚げを知らなかったという方は、ぜひ挑戦してみてください。

1 水切り（大半の花に有効）

深めのバケツに水を張り、水揚げする花をその水を張った水中で切れ味のいいハサミなどで、切り口の先端から2～3cm程の所を、斜めにスパッと切って吸水させる最も効率的な水揚げ方法。一度水揚げされた切り花を再び生ける場合は、湿らせた新聞紙などで包んで再度、水中で水切りして水揚げさせると良い。

2 湯揚げ（葉がすぐに乾燥してしまう植物に有効・・・マーガレット・ストック・ヤグルマソウ・バラなど）

60℃～100℃の熱湯を準備する。切り花を新聞紙などに包み根元を固め、根元から1cm程の所を切った切り口をすばやく熱湯の中に入れ、20～40秒ほど浸けた後、すばやく冷水に浸け2時間ほど水揚げする。

3 焼きあげ（他の方法であがらない時のショック療法・・・ポインセチア・アジサイ・クちなシ・バラなど）

切り花を湿らせた新聞紙などに包む。根元から1cm程の所を切り、そこから更に2～3cm程度が炭状になるまで火で焼く。その後、すぐに水に浸け、水がしっかり上がってきたら炭状の上部分を水切りする。

4 水折り（茎が硬く、折った際に綺麗に折れる細い枝ものに有効・・・キク・リンドウ・カーネーションなど）

刃物を使わず、根元から2～3cm程度の部分を手で折る方法。折るときには水中で行い、5秒ほどそのまま浸ける。うまく折れない植物の場合は、水の通り道を塞いでしまうので逆効果になってしまう。

5 割る・裂く（主に枝ものを水揚げするときに使われる方法・・・ツツジ・桜・ツバキなど）

簡単にハサミなどで切ることが難しい硬いものや太い植物に用いられる方法。金槌でたたいたり、茎の切り口に十字型の切れ目を入れて縦に割れをいれることで吸い上げを良くする水揚げ方法。

展示室の植物（97）

げっかびじん
月下美人

学名: *Epiphyllum oxypetalum* サボテン科 エピフィラム属

当センターの展示室で秘かに咲く「月下美人」は、人為的に改良された草花ではなく自然界に咲く原種の



子孫です。夕暮れから夜にかけて芳香を放つ大輪を咲かせますが、朝にはしぼんでしまうので参観者にその花を見ていただく機会はありません。当センターの販売コーナーで子苗を買われて育てた方には「最初は驚きました。今は夜に家の中で漂い始める良い香りで咲き始めたことがわかるほど・・・」。その名も「儂く美しいさま」に由来していることが解ります。原産地はメキシコから中米にかけて分布する多肉植物(サボテン)の一種で、樹木の上に着生して育ちます。☺ 撮影(2021.06.08 21:01) 当センター所長 横尾